

大阪湾における高潮に関する現状と課題

(都市機能が集積した大都市に高潮による大規模な浸水が発生すると・・・)

【避難場所】

- ゼロメートル地帯に存在する避難所は**139箇所**
- ・浸水時に安全な避難場所の確保が必要
- ・浸水の長期化による避難計画の見直し

【地 勢】

- 南西に開いた形状は、高潮被害を受けやすい地形
- ゼロメートル地帯の面積 **:約64km²**
- 大阪湾沿岸の海岸延長 **:約422km**

【高潮対策施設】

- 高潮対策が必要な海岸延長 **:約245km**
- 計画堤防高さが確保されている堤防延長 **:約226km(92%)**
- 耐震対策を行っている堤防の延長 **:約241km(98%)***
- ※耐震対策を行っている施設の中には、阪神・淡路大震災以前の耐震基準のものも含まれている

【人 口】

- ゼロメートル地帯の常住人口 **:約64万人(約28万世帯)**
- 昼間人口 **:約100万人**
- その他にもショッピングや観光などの来外者が多数
- ・大量の避難者が発生し、帰宅困難者も多数となる

【資 産】

- ゼロメートル地帯の個人・事業資産の総額は、**約9兆円**
- ・経済的被害は、甚大で、長期化すれば、間接的被害も拡大

【交通機関】

- 幹線道路や鉄道がゼロメートル地帯を通過
- 主要な鉄道駅は、梅田周辺に集中
- JR、市営地下鉄、阪神電鉄、阪急電鉄の梅田周辺駅の1日の昇降者数は**約232万人**
- ・道路や公共交通機関の麻痺により、利用者に大混乱をきたす

【地下街】

- 梅田地下街の面積は、約3.1ha、一日の利用者数は、**約60万人**
- ・駅、商業ビル、沿道など浸水経路が無数に存在
- ・一旦浸水すると、排水が困難で、復旧に長期間を要する

【浄水場、下水処理場】

- 浄水場:1箇所(大阪市)
- 下水処理場:6箇所(大阪市:4箇所、尼崎市:2箇所)
- ・上水の供給停止、浸水時の汚水流出の懸念

【水門・樋門・排水機場施設】()内は東京湾における数

- 水門・樋門: **193箇所** (71箇所)
- 陸 閘: **760箇所** (87箇所)
- 排水機場: **23箇所** (26箇所)
- ・事前の閉鎖には一定の時間と多大な労力が必要
- ・開口部が多く、浸水リスクが大きい

【危険物貯蔵所】

- 油槽所、貯木所、コンテナヤード:計**115箇所**
- ・堤防、護岸外部のコンテナヤード(23箇所)からのコンテナ流出による施設破損が懸念される

【病院、福祉施設】

- 多くの施設がゼロメートル地帯に立地
- 病 院: **83施設**(506施設の**約16%**)
- 福祉施設: **74施設**(677施設の**約11%**)
- ・施設の機能が停止し、負傷者や被災者の受け入れが不能に
- ・入院患者(入所者)の安全と受け入れ先の確保が必要



撮影年: 2005年

【定義】

大阪湾沿岸:兵庫県神戸市から大阪府岬町(13市3町)の海岸
 ゼロメートル地帯:大阪湾沿岸の標高が朔望平均満潮位 T.P.+0.9(OP+2.2m)よりも低く、かつ高潮により浸水する可能性がある地域